

芸術社会学研究会

近年、地域活性化型アートプロジェクト、芸術に関わる文化政策、社会・政治・制度などの問題をとりあげるアートへの関心が高まってきています。このような芸術と社会の関係を、社会学、文化研究、文化政策、美術史などのさまざまな視点を交差させながら考察します。

日時： 2009年11月7日（土） 12:00～14:30

会場： 福岡アジア美術館8階会議室*

■ 報告1：12:00-12:40

毛利嘉孝（東京藝術大学准教授）

「グラフィティVS美術館：ブリストル美術館・博物館で行われたBANKSY展から考える」

■ 報告2：12:40-13:20

小泉元宏（東京藝術大学大学院）

「(アート) プロジェクト化する国際美術展：

「越後妻有アートトリエンナーレ 2009」と「別府・混浴温泉世界」から考える」

■ 報告3：13:20-14:00

吉澤弥生（大阪大学 GCOE 特任研究員／NPO 法人 recip 代表理事）

「大阪の文化事業／アートプロジェクトの展開」

■ 全体ディスカッション：14:00-14:30

コメンテーター：宮本初音（ミュージアムシティ・プロジェクト事務局長）

進行：石松紀子（福岡アジア美術館）

*8階の「美術館事務室」内へお入りください。

福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル8階

福岡アジア美術館（<http://faam.city.fukuoka.lg.jp>）

主催：芸術社会学研究会（研究会代表：東京藝術大学音楽環境創造科准教授 毛利嘉孝）

共催：福岡アジア美術館、大阪大学 GCOE「コンフリクトの人文科学」

問い合わせ先：石松紀子（nori@faam.ajibi.jp）